

よみがえれ 地方語

◎7◎

船津 好明

沖縄文字と発音 ⑤

用例——素んちゅ(ねずみ)、素ーきー(金持ち)

いは「うい」と二音に聞こえたり、発声の瞬間に「う」の響きをあえて残そうとするのは正しくない。

対照例——わじゃゑー(災)、ういゑー(お祝い)

「ゐ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめて尖らせ、のどぐちを開き、「う」と「い」をほとんど同時にいうようにすると、「ゐ」の発音に近くなる。発声時の口の形(唇、歯、舌、ほおなど)は、のどぐちの部分を除いて、前記の「ゐ」の発声時と少しも変わらない。なお、「うい」と二音に聞こえたり、発声の瞬間に「う」の響きをあえて残そうとするのは正しくない。

「ゑ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめて尖らせ、のどぐちを開き、これを破裂させるような感じで「う」と「え」をほとんど同時にいうようにすると、「ゑ」の発音に近くなる。発声時の口の形(唇、歯、舌、ほおなど)は、のどぐちの部分を除いて、「ゑ」の発声時と少しも変わらない。なお、「ゑ」の字には「う」のイメージがあるが、発音においては「うえ」と二音に聞こえたり、発声の瞬間に「う」の響きをあえて残そうとするのは正しくない。

対照国語文字 沖縄文字

わ ゐ

音韻記号 = ?wa
国際音声記号 = [?wa]

対照旧国語文字 沖縄文字

ゐ ゐ

音韻記号 = 'wi
国際音声記号 = [wi]

音韻記号 = ?wi
国際音声記号 = [?wi]

発想——国語文字「う」と「わ」を組み合わせた表記法が従来散見されるので、これに配慮し、これらを結合させたもの。

用例——あー(豚)、あーちち(天候)

対照例——わーむん(私)のもの、くちわき(言い訳)

「あ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめて尖らせ、のどぐちを閉じ、これを破裂させるような感じで「わ」と「い」を同時にすると、「あ」の発音に近くなる。発声時の口の形(唇、歯、舌、ほおなど)は、のどぐちの部分を除いて、「わ」の発声時と少しも変わらない。なお、「あ」には「う」のイメージがあるが、発音においては「うわ」と二音に聞こえたり、発声の瞬間に「う」の響きをあえて残そうとするのは正しくない。

発想——「あ」の発想に準じ、国語文字「う」と旧国語文字「ゐ」を結合させたもの。

用例——あっちゅ(老人)、ゐーりきまん(面白い)

対照例——あっちゅ(酔った人)、ゐきが(男)

「あ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめて尖らせ、のどぐちを閉じ、これを破裂させるような感じで、「う」と「い」を同時にすると、「あ」の発音に近くなる。発声時の口の形(唇、歯、舌、ほおなど)は、のどぐちの部分を除いて、「あ」の発声時と少しも変わらない。なお「あ」の字には「う」のイメージがあるが、発音においては「あ」の発想に準じ、国語文字「う」と旧国語文字「ゐ」を結合させたもの。

対照旧国語文字 沖縄文字

ゑ ゐ

音韻記号 = 'we
国際音声記号 = [we]

音韻記号 = ?we
国際音声記号 = [?we]

「ゑ」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめて尖らせ、のどぐちを開き、「う」と「え」をほとんど同時にいうようにすると、「ゑ」の発音に近くなる。発声時の口の形(唇、歯、舌、ほおなど)は、のどぐちの部分を除いて、前記の「ゑ」の発声時と少しも変わらない。なお、「うえ」と二音に聞こえたり、発声の瞬間に「う」の響きをあえて残そうとするのは正しくない。(沖縄語研究家)